

旧満州の玄関都市 大連

人々の喧騒と槌音の響き渡る街

大連は旧満州（現中国東北地方）の海の玄関口で中国屈指の国際貿易港です。そしていま、街は高度成長期の真っ只中にあります。

100年前からあるカビの生えたような街の隣で、真新しい超高層ビルが天高くそびえ立ちます。

120年前、帝政ロシアは、清国から租借したこの地に、満州の玄関口となる港湾都市の建設を始めます。日露戦争後は日本が引継ぎ、終戦までの数十年、建設ラッシュが続きました。

街には、その当時に建築された数多の建物が残っています。日本のように、パラバラと古民家が残るのではなく、ある地区では、一切の建物が建て替わることなく、街ごと残っています。そしていま、急激な経済成長の下、街には槌音が響き渡り、100年前の街が超高層ビルに生まれ変わっているのです。

大連駅前には喧騒の中にありました。

中国各地からの観光客、郊外から遊びに来た市民、そして外国人観光客など、広大な駅前には人で溢れていました。それでも、東北地方各地の駅前に比べると、整然としていました。120年前、ロシアと日本により建設されたインフラが、しっかり機能しているのだと感じました。



上左が満州地方の一般的な住宅です。5～10階建てRC造の階段室型で、エレベーターと開放形バルコニーはなく、張り出したサンルームが物干場のような様子です。右上が建設中の住宅。約20階建てRCで、やはり開放バルコニーはありません。右下が大連空港近くの住宅地を機上から撮影したもの。南面並行配置で、高度成長の日本における「団地」に似ていると感じました。

まちあるきの考古学

街のカタチに残る 日本とロシアの夢見た理想都市の痕跡

都市計画のマスタープランは帝政ロシアが描きました。

陸路と海路の結節点に新たな西欧都市を建設し、先行する英国のシンガポール・香港に対抗する、帝政ロシア南進政策の集大成としての都市を目指したのです。

遠くハルビンから伸びてきた南満州鉄道を、新たに建設した大連港まで引き込み、鉄道を挟んで、海側に官庁街、陸側にヨーロッパ人街を配置しました。

大連港は岸壁延長4kmに及ぶ当時東洋一の規模を誇りました。船客待合所は天蓋(トップライト)を備え、映画「ラストエンペラー」の撮影場所にもなった巨大な建物です。

大連港に上陸した人々は、大広場に街路が集まる、パリに似た近代西欧の街並みを目の当たりにします。

大広場の直径は200m。パリのエトワール凱旋門広場とほぼ同じ規模で、威風堂々の石造建築が取り囲みました。大広場からは12本の幅広い街路が伸び、周りの広場、大連港、大連駅、官庁街、中国街などと繋がっています。

鉄道に乗り込む人達が、まず目にするのは、大連駅と日本橋(現勝利橋)です。

日本橋は大連の都市門です。橋脚は西欧古典的デザインで、列車からの視線を意識しています。

大連駅舎はアール・デコ調で、マッサボリュームを強調した当時では斬新なデザインです。乗降客の動線を上下分離したことも斬新でした。広い駅前広場を配することで、歩車分離も図られています。

乗車客は、駅前斜路を上がって2階から駅舎に入り、天井の高いホールで改札を通過して1階ホームに降ります。降車客は、ホームから地下改札を通過して1階出口から表に出ます。それはまるで、空港ターミナルのようです。

これら建物の設計は、大連の都市建設そのものを任せられた満鉄技師の手によるものです。ロシア人の引いたマスタープランに、日本人が建設を引き継ぎ、いまの大連はその遺産の上に成り立っているのです。



日本橋 大連の都市門



大連駅

大連駅前
乗降客分離と歩車分離

大広場は古今建築様式の見本市

大広場(現中山広場)に面する建物は11棟。うち9棟が戦前に建築され、7棟が日本人の手によるものです。
広場と街路の建設がほぼ完了した時に日露戦争が勃発、ロシアのアジア進出の夢は潰え、大連の新都市建設も中断。その後、日本がそれを引き継ぎます。

世界恐慌前の好景気、欧米諸都市は未曾有の建設ラッシュに湧いていました。古典復古調のデザインは出尽くし、マンハッタンではアール・デコをまとった摩天楼が出現し、新しいモダニズム建築が産声を上げていた時代です。
極東の大連に、最新のデザイン潮流が流れ込み、大広場は、さながら最新デザインを学んだ新進気鋭の日本人建築家による見本市の様相を呈しました。

朝鮮銀行大連支店

コリントオーダーの並ぶ古典復興調デザインは、満州金融の覇権争いの表れです。



大連ヤマトホテル

満州一の格式を誇った満鉄経営ホテルは、日本橋からのアイストップに配置されました。



東洋拓殖大連ビル(現交通銀行渤海分行)
米国商業建築の影響を受け、外観を三分割し、下層にアーチ窓を連ねています。



大連民政署

大広場に面して最初に建築された、煉瓦造2階建ての北歐風の建物です。



大連市役所

和テイストのモチーフを取り入れた斬新なデザイン。祇園祭の山車をファサードデザインのモチーフとし、玄関庇に唐破風、柱上部には斗供が付いています。

大連の街に残る 日本人街とロシア人街を訪ね歩きました

官庁街 通りのアイストップにあるのが1900年竣工のロシア租借地時代の大連市役所。この付近は、大連の都市建設初期に建築が始まったため、ロシア人設計の建物が数多く残っています。通り沿いの洋風古典建築は綺麗に修復され、さながらテーマパークのような観光地になっています。



ロシア租借地時代の大連市役所
北欧ルネサンス様式。現在閉鎖中。

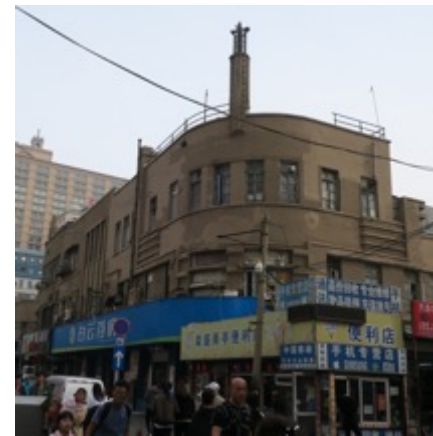


日本橋郵便局
日本橋前の広場に面する、アメリカ商業建築の様式を取り入れた、当時の最新流行の外観デザイン。



甘井子(旧日本人街)

大連湾を挟んで北方5kmにあった日本人街に残る煉瓦造テラスハウス。瓦の勾配屋根と暖炉の煙突。増改築が激しいが、今だに住宅として使用されています。



連鎖街

1930年(昭和5年)に竣工した大連駅前商店街。1階が店舗、2~3階が住居で、映画館や公衆浴場も備えた新たな都市型住居の提案でした。アール・デコ調の装飾など外観デザインも面白い。

